

二人 「好きな人が出来ました。」

柚香 「親族が五月蠅かったから我慢してただけなの。」

美也 「キミがあんまり必死だったから… 構ってあげてただけだから…」

二人 「だから私と別れて下さい。」

柚香 「ねえ？ 貴方… 本気で自分が私から好かれてるとか思ってたの？」

美也 「普通釣り合いとか考えないかな？ キミなんかが私と釣り合う訳ないよね？」

二人 「貴方の顔、見てるだけで気持ち悪くて」

柚香 「私、一番好きな人に逢えたから。」

美也 「その人の事、心の底から愛しています。」

柚香 「美也様」

美也 「柚香様」

柚香 「私ね♡ 美也様の持ち物にして貰えたの♪」

美也 「柚香様が使用人として飼って下さるって仰ってくれて♡」

二人 「今、とっても幸せ♡」

柚香 「死ぬまでずっと美也様に御奉仕させて頂くのよ♡」

美也 「柚香様にお仕えさせて頂くなんて夢みたい♡」

二人 「だからオマエは邪魔。」

柚香 「まだ自分の立場を理解していないみたいね？」

美也 「念入りに身の程を解らせてあげるよ。」

二人 「目を逸らすことは許さない」

柚香 「脳味噌減茶苦茶に壊してあげるね♪」

美也 「二度と笑えなくなるから。」

二人 「じゃあ始めようか。」

01. 美也寝取られ墮ち編

あのね、今日は大事な話があるの。

单刀直入に言うね。

ふー

君との結婚の話は無かつたことにして下さい。

ごめんね。

折角頑張ってプロポーズしてくれたのにね。

理由？

聞きたい？

私が君ならこの場で席を立つけど。

まあいいいわ。

悪いのは私だしね。

好きな人が出来たの。

…違うな。

ずっと好きだった人に、また逢えたの。

初めて会ってから、もうどれくらい経ったんだろう…

私はその人にずっと惹かれ続けて

毎晩、その人の顔を思い浮かべ続けて

昨日偶然会えたの。

最初は。

最初は軽く世間話でもしてね…

笑ってバイバイしよって思ったんだけど…

すぐに無理だと悟ったわ。

私からお願ひしたの。

泣きながら必死に縋つて

「貴女の女にして下さい」って膝まずいて懇願した。

無様でしょ？

幻滅してくれると嬉しいな。

ああ、まだ帰らないで。

君にも紹介するから。

ケジメ？

違うよ。

その人の命令なの。

私が誰の女かを証明しろ、ってね。

ごめんね。

君が思ってるほど、私強くないから。

話、付きました！
今から… 見て貰えます！

柚香 「くすぐす。 どうも～ はじめまして♪」

美也 「///あ、あの… 私 私」

柚香 「あら～♪ 素敵な旦那様じゃないww」

美也 「ご、ごめんなさい！」

柚香 「くすぐす。 私に謝っても仕方ないよねw？」

美也 「あ、あ、あ…」

柚香 「貴方が旦那様ですか？ よく伺っております。」

美也 「ち、違う！」

柚香 「今、私が挨拶してますよね♪」

美也 「あ、あ、あ…」

柚香 「うふふふ。 旦那様、話はどこまで聞かれましたか？」

美也 「そ、その… 久しぶりに…」

柚香 「ねえ？ 私達がお話ししてるよね？」

美也 「あ！ も、申し訳…アリマセン」

柚香 「この人、今はこんななんですけど。 昔は恰好良かったんですよ？ 母校では『王子様』なんて呼ばれてました♪ くすくす♪ ねえ？」

美也 「いえ、はい、いえ。 それほどじや…」

柚香 「最近屋敷を相続したのですけど、広すぎて少し持て余しております。 身の回りの世話をさせる者を探していたのですケド… 使えそうなのが中々見つからなくてw」

美也 「…」

柚香 「美也。 お別れの挨拶はちゃんと済ませたの？」

美也 「は、はい。 一応。」

柚香 「一応じゃダメでしょう！」

美也 「も、申し訳ありません！」

柚香 「ほら、涙を拭いて。 じゃあ、折角三人揃ったのですし 旦那様にも見て貰いましょうか？ 私達がどういう関係か♪」

美也 「///は、はい！」

柚香 「くすくす♪ 盗っちやった♪

悔しいですか？
元旦那様w
まだ籍を入れてないから元彼クンかなww
うふつ♪

私も心苦しいんですけどw
この子、私じゃないと感じない身体みたいなので♪

ね～♪

美也 「あ、あ、あ… ゴメンナサイゴメンナサイ」

柚香 「反省するフリとかやめたら～？ 白々しい女ねえw

そうだ。
昨日どんな風に私にオネダリしたか元彼クンに見て貰いなさいよ。」

美也 「えっ！？ 嘘ッ？」

柚香 「チュッ」

美也 「アッ！」

柚香 「ほらw 元彼クンに報告してあげなさい。」

美也 「あああ い、嫌」

柚香 「『嫌』じゃないよね？」

美也 「んくう♪ み、見ないで お願い」

柚香 「あらあら～ こんなで感じちゃうんだ？ こんなで感じちゃうんだ？ 酷い女ね～」

美也 「あっ！ 乳首、強くしないで… ッ！ んふつ！ あッ！」

柚香 「まだ開発始めたばかりなのにw いやらしい女ww」

美也 「だ、だって だってえ 触られてるだけなのに… あッ！」

柚香 「あら～ うそ～ 元彼の前でイッちゃうの？ さいて～♪」

美也 「や！ や！ いや！」

柚香 「さっきと zwar こと全然違うよね♪ さっき私にどんなオネダリした？ ん？」

美也 「ゆ、ゆるして… ュルシテクガ…」

柚香 「ふふふ。 この子って昔からこうなんですよww 頭の中はいやらしい事でいっぱいなのに。
やたらと常識人ぶりたがるんですww」

美也 「んふくウ～～！」

柚香 「あはは 何その顔w？ 我慢してるの？ 元彼クンにもイってる顔見せてあげなさいよww」

美也 「ア くう～」

柚香 「くすくす あら～ 元彼クン、こんなので興奮しちゃいましたの？ こんなので良ければもっと見せてあげましょうか？」

美也 「やー！ やーなの！」

柚香 「あははははw 自分で股を開きながら何を言ってるんだかww」

美也 「ち、違！ これは違うの！」

柚香 「私のペニス。 欲しいよね？ いらないの～？ やめよっか？ 別に私はどっちでもいいんだけどな？」

美也 「え？ え？ え？」

柚香 「ふふつ じゃあ、しばらくセックスはしなくていいよね？」

美也 「あ！ あ！ じゃなくて！？」

柚香 「くすくす 何？ 誰が勝手に入れていいって言ったの？」

美也 「も、申し訳ございません！」

柚香 「私に抱かれたい時はどんな風にお願いするんだった？」

美也 「はつ はひつ！」

柚香 「なさけない女w」

美也 「お、お恵み下さい！ 私は柚子様のチンポなしでは生きられない女です！ 情けない私にお情けを下さいませ！」

柚香 「うつわ～ww 普通捨てた男の目の前でそれを言う？ あなたって最低の女よね？ 旦那様可哀そうww あははははww」

美也 「私は柚子様に絶対服従の暇つぶしマンコです！ 何でもしますからお恵みを下さいませ！」

柚香 「ふふつ♪ 仕方のない子ね♪ 元彼クン、ごめんなさいね～ww この子、私でないと駄目みたいなので♪」

美也 「はあ はあ はあ」

柚香 「美也。 もっと腰浮かせないよw この子って学習能力ゼロだから嫌になっちゃう♪」

美也 「はッ はひつ！ 申し訳御座いません！」

柚香 「ふふつ まあいいわ。 恵んであげる♪」

美也 「あ、ありがt… んきゅうッ！」

柚香 「ふー。 もう少し拡張工事が必要かなw」

美也 「あ！ あ！ あ！ あ！」

柚香 「ほら！ まだ先っぽしか入れてないよ！」

美也 「お！？ んぐう ひや いひやあ…」

柚香 「ん～？ チンポを入れて貰ったら何て言うんだったっけ？ ん～？」

美也 「…はひまひゅ …はひまひゅう」

柚香 「あはは！ 聞こえないわねえ♪ これはお仕置きコースかな？」

美也 「ひいッ！ はひゅッ！ お、オチンポ様ッ！ オチンポ様を入れて頂いてありがとうございます！」

柚香 「ほらあw 昨日も教えてあげたばっかりだよねえ？ ハメて貰ってる時は腰をどんな風に動かすんだった？」

美也 「あぎゅッ は、はひつ オチンポ様を包み込む様に動きます！」

柚香 「解ってるなら、そうしなよ♪」

美也 「も、申し訳… んひいいいいいい あつ あつ あつ いぎいいいいいいいい」

柚香 「使えない女ねw」

美也 「あひいいいい♪ んはああああ♪ はあ♪ はあ♪ オチンポ様深すぎるよお♪」

柚香 「あら～^~ 元彼クン我慢汁がジュクジュクしちゃってるね♪ いいんですよ～？ いっぱいお別れオナニーなさって下さいね♪」

美也 「はあ♪ はあ♪ んふはあああ♪ 柚子様っ♪ いいですッ♪ しきゅうがズンズンしちゃいますウー♪」

柚香 「ふつw 安い女ね♪ 元彼君、安心して下さい♪ 飽きたらこの子を使わせてあげますからね♪」

美也 「ずじゅばおおおおお！！！！！」 じゅばっつじゅばっつじゅばっつじゅばおおおおお！！！！」

柚香 「あははははwwww 今の表情♪ 私がサドならそそってたかもww
ここでしばらくフェラさせとくから♪
元彼クンは好きなだけ寝取られオナニーしておいてねw」

柚香 「も、申し訳御座いません！ この埋め合わせはまた後日正式に家の者にさせておきますので…」

美也 「ごめんね一旦那クーン。 コイツ、こういうトコ多いでしょ？ ダメだよー甘やかしちゃww」

柚香 「…反省しております」

美也 「ほら、もっとちゃんと頭下げなきや駄目だろ。 昨日あれだけ教育してやったのに、全然進歩しないよな、オマエ。」

柚香 「ハハハ き、教育…」

美也 「んー？ 身体が思い出しちゃったか？ 今日はセックスなしだぞー。 私、旦那クンに挨拶しに来ただけだし。」

柚香 「えっ！？ そ、そんな別れたら ハ 下さるって…」

美也 「は？ 馬鹿かオマエ。 旦那クンの前でヤルつもりだったの？ 最悪だなコイツ。 旦那クン、こんな女のどこが良かったの？」

柚香 「…あ あう あう」

美也 「泣くな馬鹿 chu♪」

柚香 「あんッ！ …つ ふつ ふつ ふつ フー」

美也 「何？ イッたの？ 旦那クンの前で？ キスしただけだぞ？」

柚香 「…だって だってだってだって！ 早く二人きりに… ナタデス」

美也 「おいおーい。 捨てた男の前で発情とか、終わってるなコイツ。 離れろって、うつとおしい。」

柚香 「きやつ！ も、申し訳ござません！」

美也 「ねー、旦那クン。 コイツ年中盛ってて大変だろ？ 引き取ってやる事にしたわ。 私親切だから。

んー？

悔しい？ 悲しい？ 囁んでる？

まあ、形としては寝取られちやった訳だしね～

私が男だったら、この場で二人共叩き殺してるね。

まあ旦那クンは陰キャっぽいし、柄にない事しなくていいよ～
怪我までさせちゃったら可哀そうだしね？」

柚香 「あの あの… こんな奴もういいじゃないですか…」

美也 「はははw 旦那クンw 『こんな奴』とか言われちやったねww いやいや、これだから女って生き物はww」

柚香 「も、もう我慢できないんです！ 美也様のお姿を見ただけで… 子宮がピクピクしちゃうんです…」

美也 「あつそ。 そりゃあ大変だ。 股と頭の病院行つとけよ。」

柚香 「あ、あの！ シマス…」

美也 「旦那クン。 こんな女ほっといてメシでも行こうぜ。 何か奢らせてよ。」

柚香 「お願いします！」

美也 「んー？」

柚香 「柚香は美也様にお仕えする為に生まれてきた卑しいメス豚です！」

美也 「ふーん。」

柚香 「美也様の望む事なら、何でもします！ 一生どこにでも着いていきます！」

美也 「旦那クン、昨日の晩飯何くった？」

柚香 「美也様の逞しいオチンポ様なしでは生きられません！ どうかオチンポ様をお恵み下さい！」

美也 「はー。 私も暇じゃないんだけどねー。 旦那クン。 すぐ終わらせるから、そこで見学してなよ♪」

柚香 「あ、ありがとうございます！ 誠心誠意尽くします！」

美也 「はいはい。 わかったわかった。 ハメてやるから、とりあえずチンポしゃぶれや。」

柚香 「はいっしゅ！ ふつふつふつふ！」

美也 「はー、めんどうせー。 ねえ、旦那クン 一つ謎なんだけどさ。 何でこんな女と付き合ってるの？」

柚香 「じゅぼぼぼぼぼ ずずずず ずっとおおおおおおおおお！」

美也 「ん～♪ つまんねー女だけど、フェラだけはまあまあかな。 60点くらいならあげてもいいかも。」

03. 用済み負け犬を身の程調教する為のダブルディルド

柚香「あら～～～ 負け犬オチンポちゃんの勃起が止まらないの？」

美也「可哀そうにww 脳味噌壊れちゃったね♪ ご愁傷様w」

柚香「ふふつ♪ 私のこと、そんなに好きだったの？ くすくすくすww」

美也「少しでも振り向いて貰えるとか思ってた？」

二人「「ば～か♪」」

柚香「釣り合ひって言葉、聞いたことなかったかな？」

美也「キミは一度、鏡を見る所から始めようか♪」

柚香「身の程知らずクンにはお仕置きが必要ねw」

美也「今から『不用品』の烙印を刻み込んであげよう♪」

二人「「去勢。」」

柚香「くすくす 負け犬オチンポちゃんがヒヨコヒヨコ反応しちゃったね」

美也「寝取られて感じちゃうの？ ふふふ。オマエはオスじゃないんだよ。」

柚香「こんな使えない負け犬オチンポちゃんは要らないよね？」

美也「あれ～？ 去勢予告されたのに、お精子チョロチョロ漏れてるね♪ どうして？」

二人「ほら、股を開け♪」

柚香「今からその汚いチンチンの生殖機能を没収するから♪」

美也「絶対にセックス出来ない身体にしてあげるね♪」

柚香「今、股を開けて言われたばかりだよね？」

美也「おやおやw 厳しめの教育が必要かなw」

二人「くすくすくす。

柚香「そのゴミチンポ、私たちにもっと見せてごらん♪」

美也「ふふつ 指で摘まめよww」

柚香「あはっ♪ 無価値な男ってペニスまで価値が無いよね♪」

美也「くすくすくす。 うわー、この状況に興奮してるの？」

柚香「気持ち悪い奴w」

美也「オマエ。 これから一生セックス禁止ね～ 風俗とかも禁止♪」

柚香「劣等遺伝子根絶しなくちゃ♪」

美也「安心して♪ ケツマンコは使わせてあげるからw」

二人「おちんちん欲しいよね？」

柚香「私の大きなオチンチンをしゃぶりたくて仕方無かったんだよね♪」

美也「安心して♪ 今からこの逞しいバキバキチンポで解らせてあげるから。」

柚香「ほら♪ ハメて貰う時はマンぐり返しでしょ♪」

美也「じゃあ、おねだりしようか？」

柚香「正直に言いなさい♪」

美也「滅茶苦茶に犯されたいんだよね？ 私達にw」

柚香「可愛くおねだり出来たら種付けレイプでアクメさせてあげるよ♪」

美也「くすくす。 お尻フリフリしようか？」

柚香「あら～？ お願いが聞こえないわね？ ちゃんと言わないとオチンチンあげないよww」

美也「ほ～ら♪ ケツマンコ広げなさいw 」

柚香「もうぐしょぐしょじゃないwww そんなにレイプされたいの？」

美也「あら～ ブルブル震えちゃってww かつわいい～♪」

柚香「どう？ これが本物のオチンチンよ♪」

美也「ふふつ もっと身体の力を抜こうか？」

柚香「あはつ コイツ、先っぽで突いただけでパニくってるしｗ」

美也「可愛いね、オマンコちゃん♪」

柚香「ねえ♪ 抵抗すると壊れちゃうよ？」

美也「くすぐす 壊れるまで犯し続けるんだけどねｗｗｗ」

柚香「ふふつ この子少し緩くない？」

美也「どうせ一人で寂しくアナル弄ってんだろｗ」

柚香「きっと一いわ」

美也「よーし、身体の力を抜きなさい♪」

柚香「その粗末なチンチンもいっぱい抜いていいからね♪」

美也「あー 溫かいわ まあまあのケツマンコだわ♪」

柚香「私のオチンポ、大きすぎて貴方の前立腺をえぐってあげれないかも♪」

美也「ふふふつ 不細工って泣き顔まで不細工だねｗｗ」

柚香「あら～ そんなにアナル気持ちいいの？ くすぐす」

美也「ん～？ 苦しい～？ 内臓、壊れちゃうね♪ カイ一ｗｗｗ」

柚香「いつでも死んでくれていいからねｗ オマエなんか要らないしｗ」

美也「くすぐす。 オチンチン、凄く勃起してるねえ？ どうして？」

柚香「あ～ このおトイレ気持ちいい♪ 顔は気持ち悪いけどｗｗ」

美也「うふふ。 お尻アキメしちゃったの？ 男として終わってるね♪」

柚香「うっそーｗ こんなのが気持ちいいんだ～ｗｗ」

美也「やめて欲しい？ 続けて欲しい？ キミが決めていいんだよ♪」

柚香「貴方の嫌がる方をしてあげるからね♪」

美也「強姦されてイッちゃうんだｗｗ ん？ レイプされる気持ちいい？」

柚香「あら？ ここがいいの？ ん～？ ここか～？ こんなので感じるのか～？」

美也「うふふふ。 可愛い声で泣くよね、この子♪ 苛め甲斐があるわあ♪」

柚香「あらあらｗ！ カウパーだ漏れじゃないｗｗ チンポねじ込まれて射精しちゃうんだｗｗ」

美也「情けない男♪ 女に犯されてメスイキするんだｗｗ」

柚香「奥まで入れてあげよっか？ まだ意識ある？ ん～？」

美也「私がピストンしたら、キミ死ぬよ？ それでも、もっと激しくして欲しい？」

柚香「この子、本当にチンポ好きよねｗｗ うふふ。 あ、またアキメしてるしｗｗ」

美也「痙攣しすぎｗｗ 感じてるの？ 死にかけてるの？ どっち～ｗ？」

柚香「くすぐす。 このオマンコちゃん、必死でクネクネしてるよねｗｗ そんなに私達に気に入られたいの？」

美也「ケツマンコ結構吸いつくね♪ 今日からキミのこと、『チンポ穴クン』って呼んであげよう♪」

柚香「あら～ｗ この子の動き激しくなった♪ 興奮する要素とかあったの～？」

美也「チンポ穴クン♪ お尻にチンポねじ込まれてトコロテン射精しちゃうチンポ穴クンｗｗ」

柚香「おい、チンポ穴。 返事は？」

美也「呼ばれたら返事しようか？ チンポ穴クン♪」

柚香「よーし、チンポ穴。 いい子ね。 もっとオマンコ締めなさい♪」

美也「今の表情 可愛いよ、チンポ穴クン♪ 返事は？」

柚香「オマエは性欲処理用のチンポ穴。 亂暴に扱われるとイッちゃう、マゾマンコちゃんｗｗ」

美也「よーし、そろそろ出そうかな♪ オマエも射精していいからな、メスイキチンポ穴クン♪」

柚香「ふふふつ 何コイツｗｗ 必死で腰振ってるしｗ オネダリしてるつもりなの？」

美也「くすぐす。 壊れるまでは使ってあげるからね、おトイレクン♪」

柚香「あらあ、それで射精なの？もっと出していいのよ？薄い精子ねえｗｗｗ」

美也「オマエの小さいペニスｗｗ　早い射精ｗｗｗ　薄い精液ｗｗｗ　スペック低い子って存在が可哀そう♪」

柚香「おいチンポ穴、私、今から射精するから、一滴でもこぼしたら後でお仕置きね♪」

美也「ふー、気持ちいい、後少し…あつ出しちゃった。ふー、最高。」

柚香「いつでも気軽に中出し出来るトイレって便利よね♪　私も後ちょっとイケそう♪」

美也「おいチンポ穴、私が出し終わったらしゃぶれ。隅々まで丁寧に舐めろよ。」

柚香「あつ、ちょ、また締まる♪」

美也「なにー？力ずくでチンポしゃぶらされて興奮してるの？マゾって幸せよね♪」

柚香「ああ～、す、すごい、っく、我慢とか無理イ、んんんんんん♪」

美也「くすぐす。おなかポテポテになってて可愛い♪」

柚香「ふイ～～～～～、さいこう、堪らないわね♪」

美也「よーし。じゃあ、もう一発出しとこうかな♪」

柚香「チンポ穴、これで終わりとか思ってないよね？」

美也「ははは、なに興奮してんのオマエｗｗ」

柚香「ん～？嬉しいの？私達にレイプされ続けるのがそんなに嬉しいんだｗｗｗ」

美也「うらあ、これがいいのか？このチンポがいいのかあｗｗ」

柚香「情けない奴ｗｗ　泣きながらメスイキしてるしｗｗｗ」

美也「おいチンポ穴！勝手に終わるんじゃない。」

柚香「おトイレの仕事は壊れるまで一生続くんだからね。」

美也「ほらッ、出すよッ、全部マンコで受け止めろ」

柚香「一滴でもこぼしたらお仕置きで泣かす♪」

美也「んッ！ふうう。使い勝手のいいトイレだわ、これ♪」

柚香「ほらあ！勝手に止まるんじゃない！次は私が出す番よ！」

美也「もっとお尻フリフリしなさい♪」

柚香「あー、出る出る出る出る、んはああああ♪」

二人「あああああああ♪」

